

FRIENDS
WITHOUT A BORDER

www.fwab.jp

Voice of friends NEWSLETTER

フレンズ・ウィズアウト・ア・ボーダー ニュースレター
ボイス オブ フレンズ vol.36

©Kenro Izu

contents

- ラオ・フレンズ小児病院スタッフ紹介
- 『ルアンパバーン・ハーフマラソン大会』
ツアー報告

- 赤尾和美看護師『今月の出来事』から
- カンボジア／ミャンマー活動報告
- ラオスにフレンズ・ビジターセンター開館



Jonathan Spector

ジョナサン・スペクター
国籍：アメリカ
■院長

どんな病院でもそうだと思いますが、私の主な業務は、子どもたちに安全で質の高い医療を提供できるような、完璧な病院をつくることです。

最先端の設備を備え、高度な訓練を受けたスタッフが常駐し、基準となる明確な医療指針が確立され、地域に根差した心のこもった素晴らしい医療を保証すること。それが私の目標です。

LFHC では、今、さらに新たな人材の雇用を進めています。素晴らしいスタッフたちとともに、目標を達成できるよう頑張ります。



Michael Maher

マイケル・マハー
国籍：イギリス
■医療教育ディレクター

私たちはまず、ラオス人医師と看護師への教育を開始しました。私は主に、医師への指導を行っています。

アイデアを共有し合うことが大切なので、ラオス人スタッフのラオスでの経験と私のイギリスでの経験を比較するセッションには、とても熱心に取り組んでいます。お互いに対話ができるよう、小さなグループで実施しています。ラオス人医師の知識はとても素晴らしいのですが、これまでは医薬品などに限界があり、臨床での実践的な技術の向上が難しかったのではないのでしょうか。

しかし、積極的に熱心に学ぶ姿に接し、LFHC は将来、世界中の仲間たちと最高の技術と経験を共有する、レベルの高い教育病院になると信じています。



Yvonne Taylor

イボン・テイラー
国籍：アメリカ
■看護教育コーディネーター

LFHC の看護教育コーディネーターとして働き始めて6ヶ月がたちました。ラオス人医療スタッフと一緒に、とても楽しく働いています。

私たちは、ラオスの子どもたちによく見られる症例について検討会を実施し、多くの時間を費やして、看護プロセスや看護ケアに関しての話し合いも行っています。質の高い医療の提供を目指し、奮闘中です。



Jennifer Brown

ジェニファー・ブラウン
国籍：アメリカ
■フレンズ・ビジターセンター
開発ディレクター

9月上旬にフレンズ・ビジターセンター(FVC)を開館し、多くの観光客に私たちの病院やラオスでの医療活動についてご紹介しています。

先日、地元の方々に向けて FVC のお披露目イベントを開催しました。参加者の多くが、それぞれができる形での LFHC 支援を考えてくれるとのことでした。

10月12日に開催された第2回ルアンパバーン・ハーフマラソン大会では、収益金の寄付先となったため、主催者側のサポートを行いました。この大会に参加した400名近いランナーの皆さんとお会いできたことは、とても楽しい経験でした。



Nalin Inlatsamy

ナリン・インラットサミー
国籍：ラオス
■フレンズ・ビジターセンター
開発アシスタント

私はフレンズ・ビジターセンター(FVC)で、LFHCの活動を伝える業務を担当しています。

先日は、ハーフマラソンに参加するためにルアンパバーンに来られた多くのランナーとお会いすることができて、とても嬉しかったです。

この大会は、ラオスの子どもたちへの支援につながるイベントとして、大成功となりました。

井津建郎が 「ワールド・オブ・チルドレン・ アワード保健賞」 受賞

当団体の創設者 / 井津建郎が、2014年度の「ワールド・オブ・チルドレン・アワード(World of Children Award) 保健賞」を受賞しました。

この賞は、子どもの保健分野に10年以上貢献した個人に贈られる、世界的に名誉ある賞です。賞の選考委員が、アンコール小児病院に出向いたり、ラオ・フレンズ小児病院のスタッフに電話取材したりしながら調査を行い、その結果、医療過疎地での小児医療に対する信念や実績が認められて、今回の受賞となりました。授賞式は、11月にニューヨークにて執り行われました。



©World of Children Award



病院の建物も完成間近！

2015年2月11日の開院式典に向け、病院建設も大詰めを迎えています。前号での報告ではまだ屋根もない状態でした。それと比較すると、だいぶ前進したことがわかります。



◀病院の外観



マラソンツアー、無事終了

10月12日（日）に開催された“ルアンパバーン・ハーフマラソン大会”に参加または応援する日本からのツアーが催行されました。

“ルアンパバーン・ハーフマラソン大会”の開催は、今年で2回目。大会の収益金がチャリティーとして寄付されますが、今年は、ラオ・フレンズ小児病院（LFHC）が支援先に！そこで、走りたい人、応援したい人に向けて企画したのが、今回のオリジナルツアーです。

約400人のランナーが集うメインのマラソン大会は、ツアーからエントリーした参加者全員が完走。なかでも、7キロコース女子の部で走った茂木志歩さんは、見事、優勝を勝ち取りました！

ツアーでは、ほかにも、ラオス駐在のフレンズJAPAN副代表・赤尾を囲んでのオリエンテーション、病院建築

現場視察、フレンズ・ビジターセンター訪問、LFHCスタッフとの懇親会、市内観光などが行われ、いずれも好評をいただきました。



▲オリエンテーションの様子

今回のマラソン大会には、フレンズ JAPAN の理事やフレンズ USA の理事、現地のフレンズスタッフも多数エントリーし、マラソン救護班には LFHC スタッフがボランティアとして参加しています。フレンズ全体で、大会を盛り上げようという気持ちで臨みました。

このチャリティーでいただいた寄付は、LFHC の薬局の建築費に充てられます。



▲コースは7km、14km、21kmの3種類。世界各地から400名ものランナーが参加しました



▲現地スタッフと懇親会



▲建築現場を見学

▼AHCビル院長と面談



ラオ・フレンズ小児病院 (LFHC) のプロジェクトディレクター ソン・インタチット君と医療教育ディレクター マイケル・マハー医師が、アンコール小児病院 (AHC) へ視察研修に行きました。フレンズ・ウィズアウト・ア・ボーダーのミッションを理解してもらうには、カンボジアのアンコール小児病院を実際に見て、そこで働くスタッフから話を聞くのが一番です。そこで、LFHC 立ち上げに関わる重要スタッフであるこの 2 人に先陣を切ってもらいました。ソン君は昨年 11 月から雇用、マイケル医師は雇用が決まっていますが、実際にラオス入りするのは 6 月になります。創設者の井津氏や私が、これまでのカンボジアでの経験、そしてラオスで目指しているものを繰り返し説明しているものの、やはり「百聞は一見に如かず」です。今のラ

オスと同様にまっさらな土地だけから始まった AHC が、現在のように成長するにはスタッフの努力なしでは成し得なかったことを、私も改めて実感しました。「カンボジア人スタッフ、ホント、頑張ったな…」と、視察へ行った 2 人とはまた違った感慨にふけった 1 週間でした。この視察で溢れそうな (いや、溢れてました!) 情報をどう処理しようかといった様子のお 2 人でしたが、おぼろげだったものがはっきりと確認できたようでした。これから半年が勝負です! <ラオス 3~4 月の出来事



▲入院病棟のケースカンファレンスに参加



▲新しく改装された受付で説明を受ける 2 人



赤尾和美看護師の「今月の出来事」から

フレンズJAPANでは、2013年から、ミャンマーに既存している地元のNGO (ゴールド・ミャンマー) のモバイルクリニック (移動診療) プロジェクトを支援しています。1年目の支援で活動内容や報告形態が充実しつつあることから、2014年も引き続き支援を続けることにしました。前年の反省点を踏まえて、今年はさらに充実、安定した活動へ前進できるように、事務局スタッフが年に1~2度の出張とe-mailでコミュニケーションをとりながら、指導に当たっています。〈ミャンマー5~6月の出来事より〉



▲学校を使って健康教育です

▼当初は混乱を来していた受付もスムーズに!



建物ができてその中で働くスタッフがいなければ病院は始まりません。今回、第2回目の採用試験を実施しました。昨年11月に実施した1回目の時には、事務系を中心に雇用をしましたが、今回は、医師、看護師の医療系が主となりました。残念ながら、薬剤師と検査技師への応募がありませんでしたが、20名あまりの応募がありました。採用試験は、英語と医療 (これも英語で) を筆記で行い、さらに面接です。英語がネックとなり、筆記試験のスコアは厳しい結果でしたが、知識や英語のスキルは人間性を量れるものではありません。LFHCでは、「中身重視」で、面接での評価に比重を置きました。その分、1人の面接に費やした時間はとても長くなり、2日間の面接でぐったりでした。時間を長

く取ることで、最初はガチガチに緊張していても、少しずつ余裕が出てきていることが見て取れました。たった1回の面接でその「人となり」を判断するのはとても難しく、フェアではないかもしれませんが、私たちも精一杯洞察したつもりです。彼らのやる気と成長がその証しとなってくれることを期待しています。次回には、新人さんのお写真もご披露したいと思います。お楽しみに! <ラオス5~6月の出来事よ



◀英語の試験の様子



病院ができるまでにできるだけたくさんの人に病院のことを知っておいてもらいたい！そこで、8月23日～25日のボート・レース・フェスティバルに合わせてLFHCのプロモーションブースを設け、パンフレットの配布、活動の写真展示をして、道行く人々に呼びかけました。新規採用スタッフ

はこれがスタッフとしての最初のお仕事。1回目の雇用で採用されたスタッフはすっかり先輩になって、新人さんをナビ

ゲートしていました。心強い！どんな病院なのかを知らない」と説明ができないと、事前勉強をして臨んだこの日。病院ロゴ入りシャツを着ての活動で、チームの一員としての意識が高まったようです。〈ラオス7～8月の出来事より〉



今回のラオス“あんなこんなミニ情報”は、ボート・レース・フェスティバルです。カンボジアのウォーター・フェスティバル（ボートレース）は11月に行われますが、ラオスは8月でした。知り合いがナムカン川沿いレストランに場所を



▶接戦になると応援もすごい

確保していて、現地特派員としては図々しくもお仲間に入れていただき、写真をゲットです！色とりどりのチームカラーに身を包み、

小気味よくオールを漕ぐ姿にホレボレ～でした。来年は病院のチームを作りたいですね。私は、先頭のリズムづくり役で絶対に出たいです！〈ラオス7～8月の出来事より〉



構成メンバーは40～45人程度まで、先頭では舟に全身で弾みをつけ漕ぐリズムを作り、後尾は舟全体を押し出すように、“エイサー、エイサー”という感じで漕いでいました。

次の話題は、活動開始前の現地健康基礎調査＝BMSです。事前調査の目的は、病院がサービスを提供する前の現地の状況を把握すること。サービス開始後にその結果を比較することで、活動の効果を評価することができます。調査に当たり、アメリカからの指導者が現地のリサーチメンバーへ、講義と実践で手ほどきをしてくださいました。写真は、研修の風景です。現地メンバーは、ルアンパバーン県保健局スタッフやもちろんLFHCの新人スタッフも総動員で構成され、4つのグループに分かれての活動でした。



▲全員集合で意見交換

▶腕の周囲の長さも发育の重要な指標です。



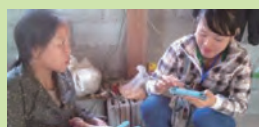
▶採血の練習が一番盛り上がっていました。



▲1週間の研修を終え、現場に！

さて、いよいよ村での本番調査が始まりです。練習で自信はあったものの、現実はやっぱりちょっと違いますね。Ipadが急に

動けなくなったり、“ふにゃふにゃ”“やだやだ”が基本のお子ちゃま相手では、大人と同じようにはいきません。風船で遊んだり、お絵かきしたりしながら仲良くなって、何とかお許しをいただき測定です。血圧測定は、顔をしかめて「いたっ！…くない??」って、微妙な反応でした。思わず大笑いです。〈ラオス1～2月の出来



▲村で初iPad



▲献血いやだ～！

▼血圧測定には微妙な反応。





AHCがLFHCと協力体制へ

ラオ・フレンズ小児病院（LFHC）に、アンコール小児病院（AHC）のスタッフが出向く機会が増えています。開院準備に伴うシステム整備や事務面で、15年に渡る経験を活かしたアドバイスをお願いしたり、実務を担ってもらったりと、プロの即戦力として協力してもらっているのです。頼りになる大先輩の派遣はこれからますます必要になると思われる、AHCに正式に申し入れをし、協力体制を敷こうということで同意がなされました。



▲AHCスタッフは頼れる大先輩

カンボジアとラオス、AHCとLFHCが姉妹病院となり、双方で成長していければと思っています。



モバイルクリニックがさらに充実予定

ミャンマーで支援しているモバイルクリニック（移動診療）は、昨年のデータを分析し、反省点や改良点を踏まえながら継続中です。今年はゲーム要素を取り入れるなど、昨年に比べると、楽しく学べるような工夫がなされました。

10月にはフレンズスタッフも現地に赴いてクリニックに同行し、現地スタッフとのミーティングを行いました。今後



▲ゲーム形式で栄養素を学習中

の支援や実施方法については、ホームページや本誌などを通してお伝えする予定です。

活動報告

K・MoPAチャリティ・ライブ 2014

山梨県 清里フォトアートミュージアム



▲ガーデン初のチャリティ・ライブ 演奏・梅木秀徳さん
写真提供：清里フォトアートミュージアム

9月14日（日）に、ラオ・フレンズ小児病院と東日本大震災復興の支援として、今年もチャリティライブを開催してくださいました。今年は「モンゴルの風」と題し、梅木秀徳さんによるホーミー（モンゴル独特の歌唱法）と馬頭琴（モンゴルを代表する楽器）の演奏です。また、岩手県陸前高田市出身の梅木さんから、震災後のお話などうかがうことができました。

グローバルフェスタJAPAN2014

東京 日比谷公園

10月4日（土）、5日（日）の両日、毎年恒例のグローバルフェスタ JAPAN が開催されました。残念なことに5日

は台風の直撃を受け、午前中のみで開催でしたが、お天気に恵まれた4日は、たくさんの方がブースに立ち寄ってくださいました。フジテレビの情報番組「めざましテレビ」の突撃取材も受け、短い時間でしたが6日（月）に放映されました。レポーターさんがミャンマーの文字で名前を書く体験…偶然、ご覧になった方は、その日の運勢がよかったかもしれませんね。

足立君江&赤尾和美 対談講演会 「カンボジア・ラオスの子どもや医療の話」

長野県松本市 カフェ“こーさんのうち”

8月7日（木）に、写真家の足立君江さんと赤尾看護師の対談講演会が行われました。フレンズの古くからの支援者で



▲長く親交のある足立&赤尾コンビ

もある足立さんは、長年、カンボジアの子どもや母親たちを撮り続けており、今回は、足立さんの写真展を兼ねた催しです。会場となったカフェは、あつという間の満員御礼状態。この日の様子は、地元の新聞にも取り上げられました。

佐賀県みやき町立三根中学校

今年もまた、三根中学校生徒会から、フレンズへの寄付をいただきました。これは生徒会が主催する募金活動によるもので、1999年度から15年間、欠かさず続けられています。

この募金は、もともとは「ボランティア精神を高めよう」ということで始まった生徒会活動のひとつでした。それが毎年、後輩たちに受け継がれ、今では、地域の名物と目されるまでになっている模様。それもそのはず、毎年、夏休みになると決まって、コンビニやスーパーなどで、地域の方たちに呼びかけ、募金活動をおこなう三根中生に出会うことができるからです。

活動を継続する中で、生徒さんたちの意識も変化してきました。「私たちは、僕たちは、国際貢献しているんだ」という自覚と、自信。それが次代へ活動をつなげるモチベーションとなって、15年にも渡り、引き継がれてきたのでしょう。

公立の学校ですから、生徒会を指導する立場の先生方も、異動により担当が変わるのが避けられません。もちろん、生徒も入れ替わっていきます。それでもなお、この募金活動を、三根中学校生徒会独自の伝統の活動として、長年に渡り続けてこられたことに感謝します。

カンボジアのアンコール小児病院が自立し、ラオスでの新プロジェクトが始まると、「今度はラオスでの活動の手助けがしたい」とのお申し出をいただきました。私たちにとっては、とてもありがたく、願ってもないことです。

三根中学校の皆さま、また、募金にご協力いただいている地元住民の皆さま、いつも、どうもありがとうございます。フレンズ事務局も、できるだけ活動のサポートをしたいと思っておりますので、今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。



▲募金活動を行う三根中生の皆さん

アジアの子どもたちを支援する
フレンズ・ウィズアウト・ア・ボーダー JAPAN
に皆さまのご協力をお願いいたします。

ご支援の方法をお選びいただけます。

- 一般賛助会員 : 年会費1口6,000円
- 学生賛助会員 : 年会費1口3,000円
- 一般寄付 : 金額・回数はご自由です

支援者には年2回発行のニュースレターをお送りするほか、報告会やイベントの案内などをお届けします。

- 正会員 : 年会費1口12,000円
団体・法人30,000円

正会員には、ニュースレターや報告会・イベントの案内などをお送りするほか、年1回の定時総会において、団体の意思決定について参加していただけます（委任状の提出も可能です）。

※正会員は、当法人が定める入会申込書を別途ご提出ください。

ご寄付を希望される方には、専用の郵便口座の振込用紙をお送りしております。ホームページのフォーム、もしくはお電話でご請求ください。郵便局や銀行に備え付けの用紙を使っていただいてもかまいません。

● 郵便口座

加入者名：特定非営利活動法人フレンズ・ウィズアウト・ア・ボーダーJAPAN
振替番号：00160-0-546217

● 銀行口座

銀行名：三菱東京UFJ銀行 中目黒支店
口座番号：普通預金 0420041
口座名：トクヒ) フレンズ・ウィズアウト・ア・ボーダー
ジャパン

● クレジット決済

ご自宅からインターネットを通じ、クレジットカードでご寄付ができます。フレンズJAPANのホームページ www.fwab.jp にアクセスし、手順に沿ってお手続きください。

※ご寄付には寄付金控除の可能な領収証を発行いたします。

※銀行からのお振込みや、ご自身の郵便口座より郵便振替で直接送金される場合、お手数ですが必ず、お名前、郵便番号、ご住所をお知らせください。

※アンコール小児病院（カンボジア）に限定したご支援をご希望される方は、その旨を事務局までお知らせください。（振込用紙使用の場合はカンボジア寄付とご記入ください）

ラオ・フレンズ小児病院（LFHC）の ビジターセンターがオープンしました

アンコール小児病院（AHC）では、広報棟の役割を担うビジターセンターが病院に隣接しており、訪問客の対応にあたっています。同じように、LFHCにも広報棟が必要であると考え、病院の開院に先だって「フレンズ・ビジターセンター（FVC）」をオープンしました。

AHCと違うのは、場所が病院から離れた街の中心部にあること。LFHCはルアンパバーンの郊外にあり、観光客がわざわざ訪れるような立地ではありません。LFHCやフレンズのことを知っている人も、知らない人も、気軽にフラッと立ち寄れる立地を、まず考慮しました。

そうして手頃な物件を見つけたまではよかったのですが、残念なことに、改装をすべて外に依頼するだけの予

算は持ち合わせておらず、業者さんをお願いできない部分はスタッフが自らの手で作り上げるしかない!……ということになり、自分たちで掃除をし、ペンキを塗り、展示物を整えて、「フレンズ・ビジターセンター（FVC）」無事、完成です。

「フレンズ・ビジターセンター（FVC）」ではLFHCやフレンズの活動紹介を行っているほか、写真やラオスの伝統織物製品などを販売しており、売り上げはLFHCの活動費に充当されます。ルアンパバーンにお出かけの際には、ぜひお立ち寄りください。



開館時間：月～金曜日 8:00～17:00（入館無料）

住所：House no.6, Unit1, Thongchaleun village,
Luang Prabang District and Province, Lao PDR

※開館時間内であれば基本的に予約は不要ですが、スタッフが不在の場合もあるため、事前予約をお勧めしています。訪問予定がある方は、フレンズJAPAN事務局までご連絡ください。

※開館時間は、今後、変更する可能性もあります。

※ラオスの祝日は閉館となります。



ラオ・フレンズ小児病院（LFHC）の開院日が決まりました

ラオ・フレンズ小児病院（LFHC）は、2015年2月11日（水）に開院式典を行い、正式に開院を迎えることとなりました。現在、開院に向けた準備が急ピッチで進められています。今後とも、ご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。


FRIENDS
WITHOUT A BORDER

www.fwab.jp

認定NPO法人
フレンズ・ウィズアウト・ア・ボーダー JAPAN
〒153-0064 東京都目黒区下目黒 1-7-5-203
Tel / Fax : 03-6421-7903
friends@fwab.jp

Friends Without A Border
1123 Broadway, Suite 1210
New York, NY 10010 USA
Tel : 212-691-0909
Fax : 212-337-8052

Lao Friends Hospital for
Children
P.O.Box 873,
Luang Prabang, Lao PDR
Tel : 856-071-254-247